
芸術(美術・工芸)

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「組織的な授業改善の推進～美術教育における学習過程の工夫改善～」

(2) 研究のねらい

新学習指導要領告示以降、芸術(美術・工芸)部門においては主体的・対話的で深い学びの視点による学習過程の改善に加え、コロナ禍におけるICTを活用した授業改善等に取り組んできた。昨年度までの先行研究を基に、新学習指導要領の実施を控えた今年度は、とくに美術教育における学習過程の工夫改善に焦点をあて、生徒が造形的な見方・考え方、感じ方を働かせ能動的に学習活動に取り組めるよう、各校の実践において題材の評価規準を精査し、指導と評価の一体化を図ることとした。

2 実践事例

(1) 題材の指導と評価の計画

① 科目名：芸術「美術Ⅰ」(学年：1学年)

② 題材名：用途や目的に合わせてトートバッグをデザインしよう～紅型を参考に～(ステンシル染付)

③ 題材の目標：

従前 4観点の場合

- ・主体的に沖縄の美術文化に関心を持ち、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現について理解すると共に、それらをかいた表現の創造活動に取り組む。(美術への関心・意欲・態度)
- ・デザインの目的、伝統的な沖縄紅型の表現の美しさなどを考えて主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。(発想や構想の能力)
- ・意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。(創造的な技能)
- ・沖縄紅型を始めとする伝統工芸品などから、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の歴史や表現の特質、伝統的な美術文化について理解を深める。(鑑賞の能力)

新学習指導要領 3観点の場合

「知識及び技能」

- ・形や色彩、材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・デザインの目的、伝統的な沖縄紅型の表現の美しさなどから主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・沖縄紅型を始めとする伝統工芸品や生徒の作品からよさや目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、沖縄の美術表現の特質、伝統的な美術文化について見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現の特質、沖縄の美術文化などについて考えると共に、誰が、どのように使うのかという目的や機能などを基にした、表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、作者のデザインの心情や意図と創造的な工夫や、沖縄の美術表現の特質、伝統的な美術文化などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

④ 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の美術文化への関心を持ち、デザインの目的、伝統的な表現の美しさなどから主体的に主題を生成し、創造的な表現の構想を練っており意図に応じ型紙、絵の具などの特性をいかし、紅型の染色技法などから創意工夫し、見通しを持ってトートバッグの制作を行おうとしている。 ・ 沖縄の伝統工芸品から作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の歴史や、表現の特質、伝統的な美術文化について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰が、どのように使うのかという目的、機能、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現の美しさなどから主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などから表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄紅型を始めとする伝統工芸品などから作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の歴史や、表現の特質、伝統的な美術文化について理解を深めている。

3 観点の場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 造形の要素の働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じてステンシルの型紙、絵の具などの材料や用具の特性をいかすとともに、紅型の染色技法などの表現方法を工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。</p>	<p>発 誰が、どのように使うのかという目的や機能、伝統的な沖縄紅型のデザイン表現の美しさなどから主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 沖縄紅型を始めとする伝統工芸品や生徒の作品から、よさや目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に誰が、どのように使うのかという目的や機能、沖縄の美術文化や伝統的な表現の美しさなどを考え、主題を生成し、ステンシルの表現形式の特性などについても考え、創造的な表現の構想を練り、意図に応じて型紙や絵の具などの特性をいかし、紅型の染色技法などから表現方法を創意工夫し、見通しをもった表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 沖縄の伝統工芸品や生徒の作品のよさや目的や機能との調和のとれた美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、沖縄の美術の表現の特質、伝統的な美術文化について見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑤ 題材の指導と評価計画

□…記録に残す評価 ■…指導に生かす評価

次	時	学習内容及び学習活動	知・技	思	態	(指導のポイント・評価のポイント)
1	1	<p>○伝統工芸品の鑑賞(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅型を始めとする沖縄の伝統工芸品を造形的な見方・考え方を働かせながら鑑賞し、その造形的な特徴やデザインの装飾性など表現の特質について自分なりに感じ取り、ワークシートにまとめ、考察を深める。 	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p> <p> </p> <p>鑑</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p> <p> </p> <p>態鑑</p>	<p>発言の内容、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】</p> <p>紅型を始めとする沖縄の伝統工芸品について取り上げ、その造形的な特徴、デザインの装飾性など気づいたことや感じたことをまとめ、考察を深めるよう指導していく。調べ学習なども取り入れ、考えがまとまらない生徒については、沖縄の風土や文化の歴史とも関連付けながら色彩効果や表現技法などに着目させるよう指導をおこなう。</p> <p>【態(態鑑)評価のポイント】</p> <p>生徒が主体的に見方や感じ方を深めようとする意欲を高めているかどうか活動の様子などから見取り評価する。</p>
2	2 3 4	<p>○発想や構想 (3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が、どのように使うのかという目的や機能、紅型の造形的な特徴の一つである「隈取り」を取り入れることを条件とし、主題を生成する。 ・生成した主題を基に、色やステンシル技法の特性を考えながら、アイデアスケッチを描く。 ・デザインの間接発表を行い、他者の作品と比較したり、デザインの意図を説明したりするなど言語活動を通して、自身の主題を明確にしていく。 	<p>発</p> <p>↓</p> <p> </p> <p>発</p>	<p>態表</p> <p>↓</p> <p> </p> <p>態表</p>	<p>発言の内容、ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子</p> <p>【指導上のポイント】</p> <p>デザインを決定する前に、中間発表を行う。自身のデザインの意図や制作の方向性を伝えることで、他者からアドバイスをもらったり、他者の発表から得た新しい価値観などをデザインの改善にいかし、発想や構想を深める指導をする。</p> <p>【知(知識)評価のポイント】</p> <p>第1次の鑑賞活動を通して、紅型の造形要素の働きや染色技法の特徴について捉えたり、全体に着目して造形的な特徴からイメージを捉えたりすることを理解できているか、アイデアスケッチや発言の内容などから見取る。</p> <p>【態(態表)評価のポイント】</p> <p>生成した主題をよりよく表現するために、主体的に繰り返しアイデアスケッチを描いたり、他の人と批評し合ったりしている姿を見取り、評価する。アイデアスケッチの量や発言の量、発表の上手さだけでは評価しない。</p>	

次	時	学習内容及び学習活動	知・技	思	態	(指導のポイント・評価のポイント)
		<授業外：題材の終了後>				<p>ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、活動の様子の記録</p> <p>【知(知識)評価のポイント】 知識は〔共通事項〕の内容を理解している実現状況を見取って評価する。</p> <p>【知(技能)評価のポイント】 技能は、制作が進む中で少しずつ形となって表れるものであるため、制作途中の作品を評価するとともに、最終的に完成作品も評価し、生徒の「創造的に表す技能」の高まりを読み取る。</p> <p>【発(発想や構想)評価のポイント】 発想や構想は制作が進む中でさらに深まることが多いため、発想や構想の場面だけではなく、制作途中の作品や完成作品からも主題やデザインの意図の変化などを再度見取り、発想や構想が変化していく過程や高まりを読み取る。</p> <p>【鑑(鑑賞)評価のポイント】 生徒自身が制作の経験を活かしながら他者の作品を鑑賞し、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて表現の学習活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深めているかどうかを見取る。</p>

⑥ 授業実践例

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p>1. 本時のねらい 相互鑑賞を通し、自身のデザインの意図を説明したり友達の作品を見てそのデザインの意図や工夫を感じ取ったりすることにより、表現したいことを明確にし、デザインを確定する。</p> <p>2. 学習活動 前時に取り組んできたアイデアスケッチを基に、完成させたデザイン案の相互鑑賞を行う。ワークシートを使用し、自身のデザインの意図や目的について整理させ、全体で発表を行う。</p> <p>導入 本時のねらい・活動の流れを理解する。</p> <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自身のデザインの目的や、紅型の特徴の一つとして「隈取り」などの表現手法をどのような意図をもって取り入れているのかなどを整理し、記入していく。 悩んでいる生徒に対し、「誰が、どのような場面で使うことを想定したものか」を再度確認させたり、色彩が感情にもたらす効果などの造形要素の働きについて改めて考えさせたりするなど、自身のデザインの目的や意図についてまとめられるように支援していく。 	<p>発目的や機能、ステンシルの表現方法のいかし方を考え、創造的な構想を練ることができている。 (発表の様子、ワークシート)</p> <p>鑑他者の作品のよさや美しさ、表現の工夫や意図を感じ取り理解を深めている。 (ワークシート)</p>

※使用したワークシート

- ①自身のデザインの意図について整理する。
- ②今後の計画(配色計画など)を整理する。
- ③现阶段で困っていることや悩んでいることを記入する。

美術 I ステンシル ～沖縄紅型～②
1年 組 番 氏名 _____

★自分のデザインについて

① 誰が使う？(自分、友達、家族、など)	② 使う人を決めた理由
③ どんな時に、どうやって使う？(買い物用のエコバッグとして… 機法の道具を入れて持ち歩く… など)	
◎ その意図にしようと思った理由も一緒に書こう！	
④ どんな模様、イラストレーション等にするか	⑤ その模様、イラストレーション等にした理由
◎ 具体的に書こう！	◎ 具体的に書こう！

★今後の計画

どんな雰囲気にしたい？(かわいい、さわやか、派手、落ち着いた…) など)

どんな色を使っていく？(具体的に色番号を使う、○○の部分は薄いピンクに染取りは某… など)

◎ 染取りについては、決まっている範囲でいいので書いてみよう

★今困っていること、悩んでいること

- ・ワークシートにまとめた内容を基に、全体で発表を行う。生徒は発表を聞き、付箋に感想や意見を記入し、発表者に渡す。渡された付箋の内容や、他者の発表を聞き、感じたことや気付いたことを基に、自身のデザインについて再度考えをまとめていく。
- ・デザインを考えるにあたり、紅型の表現技法とステンシルの表現技法の相違点について再度確認した上で、構想を練るよう指導していく。

3. まとめ

振り返りプリント(毎時の記録)を記入し、次時の取組について確認する。

研究実施校：神奈川県立白山高等学校(全日制)

実施日：令和3年10月14日(木)

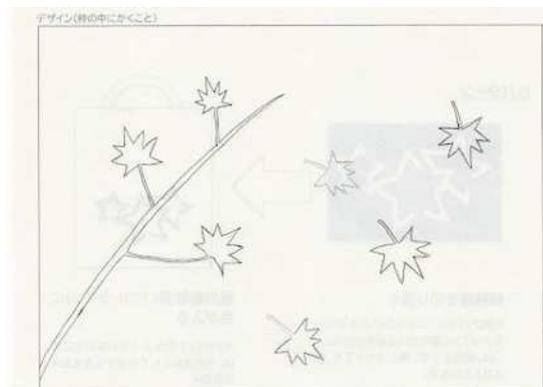
授業担当者：麻生 茉希 教諭

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・主体的な学びにつながるよう、題材に修学旅行先の沖縄県の伝統工芸を取り上げ、鑑賞や発想の展開時に調べ学習などを行うことで、自身で感じ取り、理解した知識を活用して主題を生成させるなどの工夫をした。また、生徒自身が使う人や用途などの目的を想定することで、装飾の機能について考える場面を設定した。
- ・これまでの題材では完成した作品について相互鑑賞を行っていたが、デザイン案が出来た段階で相互鑑賞の場を設定することで、自身の制作意図を説明する言語活動を通じて自分の主題を明確にすることや、生徒自身が対話を通じた学習の効果を感じる場面の設定を意識した。

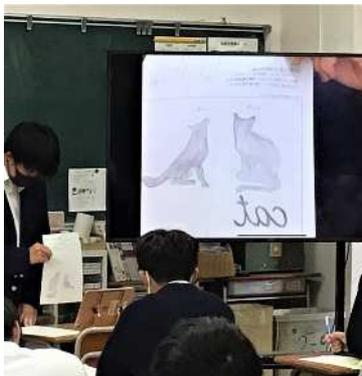
生徒の様子・感想・作品

生徒作品(デザイン案)



中間発表の流れと生徒の様子

- ①タブレット端末と液晶テレビをつなぎ、デザインを映しながら発表を行う。
- ②発表を聞いて、困っていることや悩んでいることに対するアドバイス等を付箋に記入する。
- ③発表終了後、付箋を交換することでアドバイスをたくさん受け取る。
- ④もらったアドバイス参考に、最終的なデザインにいかしていく。



発表の様子



付箋の交換



アドバイスの内容を確認

生徒のワークシートより感想

- ・みんなそれぞれの個性が出て見ていて楽しかったし、みんなからの意見で新しいアイデアが思いついたので良かったです。
- ・どんな色にするか悩んでいたけど、みんなから紫やオレンジが良いのではないかと意見をもらったので、参考にしたいと思いました。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的な学びの視点

学習活動に当事者意識を待たせるため、題材に修学旅行先の沖縄県の伝統工芸を選び、鑑賞や発想の展開時に調べ学習を行うなど、自身で感じ取り、理解した知識を活用し、主題を生成させるなどを工夫した。また作品は、生活の中の美術が意識できるように、生徒自身が、使う人や用途などの目的も設定し、装飾の機能について考える場面を設定し主体的な学びにつながるよう工夫した。

イ 対話的な学びの視点

美術作品や、生徒作品等との鑑賞による対話は、言語活動での振り返りや意見交換の場面を設定し、他者の意見から新しい価値観を見い出したり、自分の考えと客観的に向き合えたりする機会になるよう配慮した。表現活動でも、制作過程で自身の制作意図を説明する活動を通して、自分の主題を明確にすることや、生徒自身が対話を通じた学習の効果を感じる場面を設定することを目指した。

ウ 深い学びの視点

誰がどのように使うのかという目的を設定するためには、日常生活における問題意識や、身近な美術への関心が大切であると生徒自身が意識できる機会を設けた。また、トートバックを装飾するために大切な、色彩感覚や構成力などは、形、色、材料などの造形の要素の効果をいかして総合的に働かせて、取り組む必要がある。そこで、新しい学習指導要領での共通事項を踏まえ、美術の授業にとって深い学びにつながる重要なものとして、毎回の授業で確認するなどの工夫をした。

まとめ

- ・アイデアスケッチの段階で相互鑑賞を行うことで、生徒自身が制作の意図を明らかにして見通しを持つことができたり、他者からの意見やアドバイスから新しい価値観に気付いて最終的なデザインを決めたりすることができるため、より深い学びを得てから作品制作に入ることができていた。また、他の生徒からたくさんのアドバイスや称賛の声、励ましのコメントをもらうことで、主体的に制作に取り組もうとする意欲が掻き立てられているように見えたため、今後の学習活動や、他の科目でも、今回の研究をいかして学習過程の工夫改善を行っていきたい。
- ・「誰が、どのように使うのかという目的や機能を考える」ことに対して、トートバックは用途が限られてしまうためか、多くの生徒が「自分が使う」という想定で、デザインを考えていた。紅型は沖縄県の伝統工芸品であるため、例えば「沖縄県を盛り上げるために配布するノベルティグッズとしてのバッグのデザインを依頼された」等、他者を通して目的や機能を考えさせるような題材設定の工夫が必要であった。

3 その他の実践事例

以下、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践事例として掲載する。

4 観点の目標、評価規準と3 観点の目標の変容も比較してみてください。

(1) 綾瀬西高等学校(全日制) 村本 亜美 教諭 実施(10月～11月)

① 科目名：芸術「美術Ⅱ」(学年：2 学年)

② 題材名：「想像の生き物をつくろう」

③ 題材の概要：オリジナルの生き物を想像し、その生態などを考え、構想を練り、塑像で表現する。
また、完成した作品を相互鑑賞する。

④ 題材の目標：3 観点

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・主題に合った表現方法を創意工夫し、表現方法を創意工夫し、アイデアスケッチを基に創造的に表す。(「A表現」(1)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、主題に応じた表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(1)ア)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、想像の生き物の発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい想像の生き物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 3 観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 造形の要素の働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて針金や粘土などの材料や粘土ベラや、やすりなどの道具の特性をいかすとともに、表現方法を創意工夫し、アイデアスケッチを基に創造的に表している。</p>	<p>発 自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、題に応じて表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、想像の生き物の発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に、作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい想像の生き物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア)教科書の参考作品や、有名な想像の生き物、既存の動物をかけた想像の生き物の図などを鑑賞したり、タブレット等で検索したりしながら想像の生き物の構想を練る。
- (イ)想像の生き物の大きさ、生息地、姿の特徴などを考え、アイデアスケッチを行い、生徒同士で意見交換を行う。
- (ウ)アイデアスケッチを参考に生き物の骨格や手足の付き方などを検討し、針金と新聞紙、マスキングテープを使って芯棒をつくる。
- (エ)芯棒に粘土をはりつけ成形し、乾燥後やすりで整える。下地材を塗り、絵の具で着色し、ニスで仕上げる。
- (オ)自身の制作についての振り返りをワークシートに記入後、相互鑑賞を行う。相手が想像した生き物の名前や作者の一押しのポイントなどについてインタビューを行い、ワークシートにまとめる。

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・生徒が主体的にイメージを膨らませることができるよう、ICT機器を活用して様々な資料を比較・検討する機会を設ける。
- ・アイデアスケッチの段階で生徒同士の意見交換をし、多様な視点から構想を練らせる。
- ・インタビュー形式での対話的な鑑賞を通して、多様な視点を得るとともに、自分の作品を客観的に捉えさせる。
- ・当初のアイデアスケッチからの変化や、進捗状況などの制作記録を記入し、次回への制作や振り返りにいかす。

生徒の様子・感想・作品



アイデアスケッチ



作品例

生徒の感想より

- ・生き物を立体的に仕上げるのが難しかった。生き物の特徴を捉えながら作品を慎重につくることができた。
- ・針金などで芯棒をつくるのが難しかった。
- ・周りの人の作品を見ていろいろと良い作品があるなあと思いました。
- ・存在しない生き物をつくるので創造性が成長したと思います。皆上手ですごかった。
- ・工程が多くて大変だった。丁寧にやらないときれいにつくることができないから難しかった。
- ・自分が想像したものを実際に形にする作業がとても楽しかった。思っていたものとは違うものになってしまったけど頑張ってたので愛着がわいた。
- ・上手く立たなくなってしまうけど一度固まったところを折って形を変えたら立つようになったので、時には破壊することも大切なんだと学んだ。
- ・針金で動物の骨組を理解してつくれてよかった。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・アイデアスケッチから大きく変化した作品はアイデアスケッチと振り返りワークシート、制作記録を照らし合わせながら生徒の発想・構想の変化をしっかりと捉える。
- ・想像する生き物の形体や色彩が設定と関連づけて表現されているか、ワークシートや机間指導の際に把握する。

⑧ まとめ

- ・平面から立体への変換が上手くできない生徒が一定数いるので、過去の作例や制作過程動画など一目で理解できるような資料を用意する必要がある。
- ・今年度は授業時数の関係でできなかったが、今後はワークシートを用意し、制作途中の意見交換の内容を制作の参考としていつでも見返すことができるようにする。
- ・自分の作品について熱心に他者に伝える生徒が想定以上に見受けられたので、相互鑑賞でのインタビュー項目を見直し、より生徒が作品に対する考えを記録できるようにする。

(2) 新栄高等学校(全日制) 渥美 恵美 教諭 実施(10月～11月)

① 科目名：芸術「美術Ⅰ」(学年：1 学年)

② 題材名：箸をつくる

③ 題材の概要：

日本の食文化に欠かせない箸について、世界3大食事法・箸の語源や歴史・使い方マナー等について学習し、自分にあう箸とはどういうものかを考えながらイメージを構成し、また、機能面も考え制作する。完成した箸を相互鑑賞する。

④ 題材の目標：

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・意図に応じて木材や彫刻刀などの材料や道具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・誰が使うのか、何を食べるのかという目的や条件、美しさなどから主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、木彫の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・箸の目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア)

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、使う人や食べるものの特徴に合わせた目的や機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、製作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 3 観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 造形の要素の働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて木材や彫刻刀などの材料や道具の特性をいかすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。</p>	<p>発 誰が使うのか、何を食べるのかという目的や条件、美しさなどから主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、木彫の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 箸の目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に、使う人や食べるものの特徴に合わせた目的や機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア) 自分の手に合う箸の長さを決めて箸材を切る。
- (イ) 箸のデザインを考え、アイデアスケッチを行う。
- (ウ) 箸材にデザインを描き、クラフトナイフ・彫刻刀・ドレッサーなどの道具を使って箸材を削る。
- (エ) 形が完成に近づいてきたら紙やすりで形を整え磨く。
- (オ) 工芸うるしを塗り、装飾が必要な生徒は折り紙や金粉などで装飾を行う。
- (カ) 完成した作品について相互鑑賞を行い、感想や気づいた点などワークシートに記入後、クラス全員の箸を個別に鑑賞し、全体の感想をワークシートに記入する。

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・ワークシートを用いて、毎時間の作業工程を確認し、自身の考えや作業内容について振り返り、本時の取組を明確にする。
- ・生徒が制作手順などを理解しやすく何度でも見られるように、Google Classroomで箸の制作過程の画像を配信する。
- ・箸を制作するだけではなく、箸についての知識を様々な角度からで紹介し、より箸について深く理解し興味を惹くようにする。
- ・完成した作品について相互鑑賞を行い、生活での美術の働きについての見方や感じ方を深める。

生徒の様子・感想・作品

生徒の様子

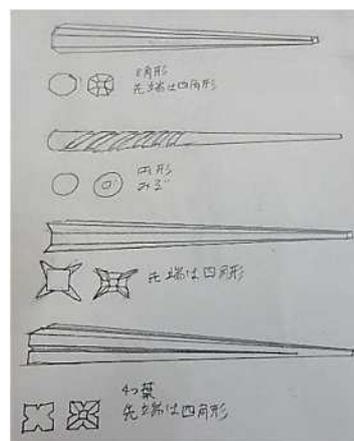
日常で使えるものを制作するのが好きな生徒が多い。最初は思ったように木材を彫れず苦戦していたが、道具のコツをつかみ楽しく制作していた。彫る、整える、着色するという工程を経てようやく箸になるので時間がかかるが、生徒が一番楽しそうにしていたのは着色の工程であった。

生徒の感想

- ・いつも何気なく使っている箸でも作る立場になると持ちやすさや見た目を考えるので奥が深いと思いました。これからは多様な視点で箸を使おうと思います。
- ・箸をつくる時、簡単かなと思っていたけど細さを均等にしたり、工芸漆をムラなく塗ったり、細かいところが意外と大変だった。でも、ラメをつけて自分の満足する箸を作れたからよかった。
- ・私は彫る作業がとても苦手だったけど、今回の授業を受けてとても成長できたと思います。折り紙で装飾したことも後悔なく綺麗にできたと思うので満足です。少し惜しかった点は箸がガタガタになってしまったので少し不格好だと思いました。
- ・自分の手の大きさに合わせて電動のこぎりで木をカットするのは、あまりない体験だったので楽しかった。
- ・僕は箸を作るのが初めてでした。なので、とても楽しく作ることができました。特に1本の木を箸の形に削る時と、紙やすりでつやつやにした時です。削る時、豪快に削るのがとても爽快感を感じることができました。出来た箸で大盛ご飯を食べたいです。



生徒作品



アイデアスケッチ

⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・日々の授業の中で生徒の取組を適宜把握して評価し、指導の改善にいかすことに重点を置いているので、生徒のアイデアスケッチ、振り返りのワークシートなどにコメントを書き、生徒が制作にいかせるアドバイスをする。制作中につまずきがあった場合は声をかけ、生徒が表現したいことが実現できるよう指導する。また教師自身も、伝え方を工夫するなど指導方法の改善を図る。
- ・鑑賞会では箸を眺めるだけではなく、自分の箸の使い心地を確かめ、他の箸も使って比較し、「自分にぴったりな素敵箸が作れたのか」という目標達成度の自己評価を行う。

⑧ まとめ

日常生活の中でどれだけ多くのよさや美しさがあっても、それを感じ取る造形的な視点があれば気が付かずに通り過ぎてしまう。実際に作ってみて、日常で使っているものに対しての視点が変わったという感想を持った生徒が多かった。また、楽しく制作して終わりではなく、完成した箸を相互鑑賞することによって造形の要素の働きについて意識を向けたり、考えて気が付いたり学習を深めることができた。

(3) 平塚湘風高等学校(全日制) 三神 杏子 教諭 実施(9月～11月)

- ① 科目名：芸術「美術Ⅰ」(学年：1学年)
- ② 題材名：「伝わるデザイン～LINEスタンプを作ろう～」(デザイン・鑑賞)
- ③ 題材の概要：使う場面を想定し、スマートフォンでibisPaintやLINEスタンプメーカー(無料アプリケーション)を用いて画像を加工し、LINEで作ったスタンプを実際に使用して、より伝わりやすいデザインの在り方を考える。

④ 題材の目標：

3 観点

「知識及び技能」

- ・形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・意図に応じてスマートフォンのアプリケーションの特性をいかすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・誰が使うのか、何を伝えるのかという目的や条件、美しさなどから主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、スマートフォンのアプリケーションの特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・LINEスタンプの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア),(イ))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、使う人や伝えたいことや機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさを感じ取り、作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 3 観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じてスマートフォンアプリケーションの特性をいかすとともに、見通しをもって創造的に伝わるデザインを表している</p>	<p>発 伝える相手や伝えたい気持ちなどから主題を生成し、伝えたい内容と美しさなどとの調和を考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 伝えたい内容と美しさなどとの調和を感じ取り、気持ちを伝えるための作者の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、相手に気持ちが伝わるようにデザインする表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、相手に気持ちが伝わるようなデザインの工夫を感じ取る鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア)制作前に身近な伝達デザインから工夫されている点を見つけ出し、気持ちを伝えるデザインに必要な要素を見つけ出す。
- (イ)アイデアスケッチの写真を撮ってスタンプの代わりにLINEのトークで試行し、伝わりやすさを考えて構図や色彩等の構想を練る。
- (ウ)アイデアスケッチを取り込み、ibisPaintで画像を加工する。
- (エ)LINEスタンプメーカーに画像を取り込み、スタンプ一覧画像をClassroomに提出する。
- (オ)制作後、自分の制作したスタンプについて「使ってほしい人」「どんな場面で使えるか」などについて班ごとにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションを聞いて伝達性について班で意見交換する。
- (カ)デザイン途中のスタンプの画像を印刷して切り取り、シャッフルしてデザイン途中の自他のスタンプを使った感想や、デザインの伝わりやすさについてワークシートに意見をまとめる。

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・最初に題材の導入として鑑賞を行い、ピクトグラムサインなどの身近な伝達デザインから工夫されている点を見つけ出す。また、写真とそこに書かれている文字の内容が合わない画像を提示し、デザインのわかりやすさと美しさとの調和を考える時間をつくり、主体的に表現の構想を練るきっかけにする。
- ・アイデアスケッチを会話の中で使用し、相手の反応からより伝えやすくするための改善点を見つける。「相手に気持ちが伝わること」への意識付けを強化し、造形的な視点を持って伝えたい情報を捉え、創造的に表すことができるようにする。
- ・完成した作品は、LINEに申請すると条件によっては誰でも使用することができる。日常生活に繋がる作品を制作することで、楽しく気持ちを伝えるためにデザインを工夫する、表現の学習活動に取り組む姿勢を養う。

生徒の様子・感想・作品

ibisPaintで画像加工中



LINEスタンプメーカーに取り込んだ後



タイトル
ふわふわ動物スタンプ

プレゼンテーションの様子



説明文
可愛らしい動物達が多少楽しい毎日してくれます。



作る側になってみて、スタンプを作る大変さを知りました。普段何気なく使っているスタンプにも、こうしたらわかりやすいだろうなとか、使いやすいなど色々考えられているのだなと思いました。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・アイデアスケッチを毎時確認し、教師の指導内容を振り返り、指導と評価を一体化させる。
- ・最初の鑑賞活動で、モチーフや言葉が感情にもたらす効果を造形的な視点を持って実感的に理解しているかを作品やワークシートで評価する。

⑧ まとめ

- ・高校生にとって身近なLINEスタンプを題材として扱うことで、生徒も完成後のイメージがとらえやすくなり、使うために作るという意識付けが高まった。
- ・「一目見て相手に意思が伝わるのが大事」という目標を繰り返し指導した。また、制作の途中で実際に使用して伝達性を検証する活動と、繰り返し改善する活動を行った。このように学習過程を工夫することで生徒の学びも深まり、様々な人が実際に使いたいと思える作品が多く完成した。
- ・生徒のスマートフォンに依存した題材になり、環境が整わない生徒は別途対応するなどの工夫が必要であった。

(4) 寒川高等学校(全日制) 櫻井 伸浩 総括教諭 実施(6月～7月)

- ① 科目名：芸術「美術Ⅲ」(学年：3学年)
- ② 題材名：静物デッサン 作品鑑賞
- ③ 題材の概要：

「静物デッサン」の題材に先立ち、デッサンに必要な要素を確認するため「鉛筆を使ったグレースケールの作成」、「教科書掲載作品の模写(鉛筆・モノクロ)」の題材に取り組んでいる。「静物デッサン」のモチーフは鉢植えの植物・葉、ビン、レンガ、布、レモン、貝殻など、固有色や質感が異なるものを選び、5人程度の囲みで描くこととした。B3パネルに画用紙を水張りし、鉛筆(4B～2H)を用い制作に取り組んだ。全体の鑑賞(共有)の場面として「鑑賞会」を中間・振り返りと2度設定した。鑑賞会では、色・形・構図・質感など、共通事項に示された造形的な見方・考え方を働かせ、自他の作品を鑑賞する活動に取り組んだ。

④ 題材の目標：

3観点 新学習指導要領の実施に向けた3観点への整理

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・主題に合った表現方法を追求し、個性をいかして創造的に表す。(「A表現」(1)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(1)ア)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の主張などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(ア))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観察の視点を踏まえた表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に作品の造形的なよさや美しさ、制作の意図などを捉え、見方や考え方、感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準 **3観点**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>技 主題に合った表現方法を追求し、個性をいかして創造的に表している。</p>	<p>発 対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の主張などについて考え、見方や考え方、感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観察の視点を踏まえた表現の創造活動に取り組もうとしている</p> <p>態鑑 「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観察の視点を手掛かりに、主体的に作品の造形的なよさや美しさ、制作の意図などを捉え、見方や考え方、感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容(鑑賞)：

- (ア)制作の振り返りを「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観点から自分の作品に対しコメントを記入する。
- (イ)「鑑賞会」の実施
 - 発表者：「ことば」で見てもらいたい点やうまく描けたことを説明する。順番に発表を行う。
 - 鑑賞者：「ことば」で作品のよい点などを記入する。発表を聞いてコメントを記入する。記入した短冊は発表者に渡す。
- (ウ)鑑賞会の後、コメントが記入された短冊を台紙に貼る。コメントを踏まえ、感想を記入する。

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・鑑賞会(共有の場面)を設定し、発表することで自身の作品を造形的な視点で振り返るとともに、他者にわかりやすく伝えるきっかけとした。
- ・発表を聞く生徒も、鑑賞者として見出した作品の良さを、根拠を持って発表者(作者)に伝えられるよう、鑑賞の主な観点を共通のものとした。
- ・鑑賞会(共有の場面)の後、鑑賞者からのコメントによって再度振り返り(フィードバック)を行い、他者の視点(新たな視点)からの気づきを促すとともに、造形的な視点を強く意識させることを意図した指導を行った。
- ・造形的な見方・考え方を意識し、言語活動を充実する手掛かりとして「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等のことば(観点)を表現・鑑賞の指導場面共に意図的に用いた。

生徒の様子・感想・作品 鑑賞会のワークシートより

- (1) 振り返りシートの記述(作品完成後に記入。これをもとに鑑賞会で発表を行った)
 - ・物と物が重なっている所などを意識した(構図)
 - ・緑などの濃い色は白黒にするとどうなるかを考えた(固有色)
 - ・見本を見ながらどんな形をしているかなど、しっかり見た(形)
 - ・ツルツルやザラザラなど鉛筆を変えて再現した(質感)
 - ・遠近を意識した(その他)
 - ・ゴツゴツやツルツル、ザラザラをしっかり意識した(全体を通して)
- (2) 発表を聞いた生徒からのコメント
 - ・レモンの形と影がうまいと思った(構図・固有色・質感・かげ)
 - ・ビンのデコボコ感がリアルにできている(形・質感)
 - ・素材の違いが良く出来ている(質感) など
- (3) 鑑賞会を終えて再度の振り返り
鑑賞会を終えて
 - (自分の作品への)他の人からのコメントを読んで気付いたこと
 - ・影のつけかたや全体的にリアルっぽいなどのコメントが多くてうれしかった。
 - ・一番頑張った所が注目されていて良かった。
 - 鑑賞会を通じて感じたこと
 - ・みんな明暗や物の質感など様々な所を上手く表現できていてすごいと思った。
 - 静物デッサンのまとめ・振り返り・感想 他
 - ・影や物の表面のツルツルやザラザラ、デコボコなどの質感を上手く表現するのが難しかった。



⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・「構図」「固有色」「形」「質感」「かげ」等の観点(造形的な見方・考え方)を用い、静物デッサンの制作のポイントとしたり、鑑賞の場面で自分の作品を振り返ることや他者の作品のよさを「ことば」で伝えたりするなど、生徒が主体的に表現・鑑賞活動に取り組む手掛かりとした。
- ・それぞれの作品に対する見方や考え方を、鑑賞活動を通じて共有し、新たな気づきを得ることや伝えることを促した。
- ・他者の視点を踏まえ、再度の振り返り(フィードバック)を行うことで、作品に対する見方や考え方が一段深まることを促した。

⑧ まとめ

- ・制作(表現)や鑑賞を通じてデッサンのポイントとなる視点について意識することを促した。とくに鑑賞会は作品や制作の意図について「ことば」で伝えるためのきっかけとなった。
- ・他者のよさを見つけることや、他者が見つけた自分の作品のよさを肯定的に受け入れるなど、モラルを持って建設的な活動に取り組むことができていた。

(5) 厚木清南高等学校高等学校(定時制) 田中 講平 総括教諭 実施(10月～11月)

① 科目名：芸術「工芸Ⅰ」(学年：全学年)

② 題材名：螺鈿細工 ～ペン皿の作成～

③ 題材の概要：漆器などに用いられる螺鈿の伝統的な装飾技法について学び、ペン皿を制作する。

④ 題材の目標：

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・制作方法を踏まえ、意図に応じて貝シート、漆などの材料や道具の特性をいかすとともに、手順や技法などを吟味し、創造的に表す。(「A表現」(1)イ)

「思考力・判断力・表現力等」

- ・使用する人や場などに求められる機能と美しさと調和を考え主題を生成し、デザインが持つ機能や効果、螺鈿工芸の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深める。
(「B鑑賞」(1)イ(ア))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、使う人や使用する場所の特徴に合わせた目的や機能などを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、作品を鑑賞し、造形要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者のデザインの意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

⑤ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 造形の要素の働きを理解し、螺鈿工芸の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて貝シートや工芸漆等の材料や道具の特性を生かすとともに、手順を吟味し、創造的に表している。</p>	<p>発 社会的な視点に立ち、使う人の願いや心情、生活環境等から生活を心豊かに演出する螺鈿工芸のペン皿を発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 螺鈿工芸の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材のいかし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に、社会的な視点に立ち使う人の願いや心情、生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に、作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

⑥ 授業の内容：

- (ア) 作例の提示・技法・素材・歴史について動画などを用いて説明する。
- (イ) アイデアスケッチを行う。生徒は必要に応じてタブレット端末から情報を収集する。
- (ウ) デザインが固まったらワークシートを用いた対話的な学習を行う。

- (エ) 下描きを貝シートに写し、切り出す。
- (オ) 皿の下塗りをする。(黒ジェツ)
- (カ) 貝を皿に貼り付け、漆を塗布する。
- (キ) 耐水ペーパーによる研ぎ出しを行う。
- (ク) 工芸ニスによる仕上げを行う。
- (ケ) 生徒作品の相互鑑賞を行う。

学習過程の工夫・改善のポイント

- ・ 導入で映像資料などを活用し、作例や歴史的な背景、現在の螺鈿工芸の職業としてのあり方などを鑑賞することにより生徒の題材に対する興味関心を高め、主体的に学ぶ姿勢の育成に努めた。
- ・ 作品制作の途中に対話的な学びを重視した活動を設定し、生徒の肯定的なメタ認知を促した。
- ・ 生徒が制作方法を創意工夫し創造的に表現できるように、道具の使い方や素材の特性について体験から学び、本制作の前に練習の機会を設けた。
- ・ 生徒が作品を完成させる経験から深い学びを得られるよう、文化祭での校内展示や地区の作品展に出品するという目標を示し、学びに向かう姿勢を引き出すよう声掛けを行った。

生徒の様子・感想・作品 ワークシートの感想より

- ・ 切り抜いたパーツが多く、形も似ていたもので、順番に切り取ったパーツをそのまま並べて保管してもらった。時間はかかったが、納得のいく作品になった。
- ・ 水の表現に迷っていたが、同じテーブルで制作している人の意見を取り入れ曲線で表現した。うまくいったと思う。
- ・ 漆から研ぎだす作業に時間がかかり疲れたけど、友達も同じ感じだったので一緒に頑張った。少しずつ貝シートで作った自分のデザインが見えてくるとやる気になった。
- ・ 金魚の尾ひれを表現するために、貝に細かい切り抜きを行うことができるか挑戦した。カッターの使い方を工夫して丁寧に取り組んだ。漆から研ぎだすときに貝も一緒に削れてしまうのではないかと心配したが成功した。自分の作品を次年度の生徒に見本として見せてほしい。
- ・ 貝を細かく砕いて撒く表現をしたかった。漆から研ぎだすのが大変だったけど、作品として出来上がったことが嬉しい。
- ・ スケートボードをする人の作品をつくった。最初は人のシルエットだけのデザインであったが、何となく寂しかったので階段の手すりを加えた。出来上がった作品を見た友達から、滑っている感じがしてよいと言われ、デザインを付け足して良かった。



⑦ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

- ・ 作業工程を理解し、積極的に制作に取り組もうとしているかをアイデアスケッチなどから見取る。
- ・ 素材の性質、用具の使い方を理解し制作しているかを制作途中の作品から評価し、指導にいかす。
- ・ 生徒自身がデザインした効果的な表現(模様)を考えて作品へ反映させるとともに、試行錯誤することで作品の質を高めることができているか、アイデアスケッチと完成作品から総合的に評価する。
- ・ 他の生徒作品や作例を鑑賞し、工夫した点や造形の美しさなどの魅力を感じ取ろうとしているかを見取り、評価するために鑑賞方法を工夫する。

⑧ まとめ

主体的・対話的で深い学びとは生徒のメタ認知能力を伸ばす教育であると解釈している。

メタ認知とは自らの認知を認知することであり、美術・工芸の授業での作品制作は、その最終過程まで、自分の作品を客観的に捉えるメタ認知的モニタリングと、モニタリングで得た情報を基に制作を進めるメタ認知的コントロールの連続である。美術・工芸の授業において、特別な授業づくりを行わずとも、生徒は作品制作の過程でそれを学んできたのだと考えた。

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践というテーマから考えると、生徒がモニタリングとコントロールを意識して制作ができるような授業づくりをすることが必要であると思う。具体的には、実際の制作に加え客観的に自分の作品を捉える活動としてのグループワークや、自分と制作中の作品との対話的な学び(自問自答)が可能なワークシートを補助教材として使用することが考えられる。

制作では、生徒がモニタリングとコントロールを繰り返すうちに、コントロールが無意識的(反射的)になり、どうすればよいか迷い、主体性をもてない的に制作に向かえない状況になることがある。そのような場面では、教師は意識的に制作の途中の学びを生徒に伝えるようにすることが必要であり、導き手として生徒の気づきを促すことが大切である。

(1) 主体的な学びの視点から

この実践事例ではICT機器を利活用し、素材の画像(貝の真珠層)や、現代の螺鈿作家の活動の紹介などを行い、題材に関する生徒の主体性を喚起した。前年度の生徒作品の例示もすることで、生徒に「できる!」という自信を持たせることができた。

また主体的な学びを引き出すためには、見通しを持たせることが必要と考え、自分の作品の仕上がりをイメージし、制作手順を考えさせる活動に取り組みさせた。

(2) 対話的な学びの視点から

作品制作において、生徒が思考し構想を練り、それを表現し、これで良いと判断をする過程での教師との対話や生徒同士での対話は、学びの一助になると考え、題材の途中で対話的な学びを重視した活動を行った。

また、言語による対話だけでなく、実際の制作を行う過程で、自らの身体と素材や道具との対話も必要となる。トライアル&エラー/試行錯誤を繰り返し、思考を深め技能を高めることも大切であると思う。

(3) 深い学びの視点から

美術・工芸の授業では、自ら目標を立て、それを実現し、それを実際の経験として得ることが学びの根幹にあると考える。生徒には作品制作についての考え方や完成させることの大切さについて、個別の状況に応じて声掛けすることを心掛けた。授業での自らの経験から、自己を実現していくための思考方法という深い学びを獲得してほしいと思う。